

# キャラクターの性格は文末イントネーションにどのように反映されるか

佐藤茉奈花(東京外国語大学大学院生)

## 1. はじめに

本研究の目的は、キャラクターに設定された性格と演技音声との関係を明らかにすることである。特に文末イントネーションに着目して、キャラクターの性格が文末イントネーションにどのように反映されるのか明らかにしたい。これまでの研究では、文末イントネーションにはその上昇・下降のしかたによって「型」があり、型が変われば文法的機能も変わるとされ、主に文末イントネーションの型の種類やその機能について研究が重ねられてきた。しかし、アニメなどのフィクション作品において性格の異なるキャラクターが同じセリフを発する場合でも、文末イントネーションには違いがあるように感じられる。つまり、文末イントネーションは従来の研究において指摘されてきた文法的機能を示すだけでなく、キャラクターの性格も反映しているのではないかと考えられる。

## 2. 先行研究

郡(1997)では、イントネーションの意味機能は、フォーカス位置や単語どうしの意味的・統語的關係、文の表現意図やモダリティ等を表示する「文法的機能」、話し手の感情や心理状態を伝える「情緒的機能」、対人関係を調節する「社会的機能」の大きく3つに分けられると述べている。この中でも最も重要なのは「文法的機能」であるとされ、イントネーション研究の中心に考えられてきた。また、郡(2003)は「文法的機能」はもっぱら文末や文節末の音調で表現されると述べ、文末イントネーションを5種類の型に分け、それぞれの特徴と機能について説明している。表1はそれらの記述をまとめたものである。一方、本研究で焦点とする「性格」は、「情緒的機能」、「社会的機能」に関わるものだと考えられるが、これらについての研究はあまり進んでいないようである。

表1 文末イントネーションの型(郡, 2003)

型	特徴	機能
a. 疑問型上昇調 (↗)	疑問文の文末に典型的に現れる、文末拍が直線的に上昇する音調。	聞き手に回答や反応を求める機能を持つ。
b. 強調型上昇調 (↑)	文末拍が直前より一段高く平らに発音される音調。	否定されることを拒否するような強い主張に使われる。
c. 顕著な下降調 (↓)	文末拍が顕著に下降する音調。	意外だと感じたことを示す。
d. 上昇下降調 (↑↓)	強調型上昇の直後に顕著な下降が続くもの。	聞き手に注目をひきつけ、訴えかける意図を表す。
e. 平調 (→)	平叙文の文末に典型的に見られる、文末拍に顕著な高低変化がない音調。	機能として特別なものをもたない。

演技音声で文末イントネーションに着目した研究では、丸島(2022)が挙げられる。丸島(2022)は、女性声優が男性役と女性役を演じ分けているドラマCDを分析対象に、上述した郡(2003)の分類に従い、5つの文末イントネーションの型を判定している。その結果、女性役では〈疑問型上昇調〉が多く用いられ、男性役では〈平調〉や〈強調型上昇調〉が用いられていることを明らかにしている。しかし、丸島(2022)はドラマCDから音声データを収集しているため、役柄によって発話内容がすべて異なっている。より条件を統制した音声データを収集し、分析することが必要であろう。

また、佐藤(2023)では、キャラクターの性格に注目し、同一声優による性格の異なるキャラクターの演技音声について、特に基本周波数と時間長に焦点を当てて分析を行っている。その結果、キャラクターの性格ごとに、声の高さや抑揚の付け方、ポーズの取り方、発話句末のモーラの長さが異なることが分かった。しかし、性格に注目した演技音声の研究はまだ少なく、多角的な分析を行う必要があると考えられる。

以上の先行研究を踏まえ、本研究では、キャラクターの性格の違いが文末イントネーションにどのように反映されるのか明らかにすることを目的とする。そのために、パーソナリティ心理学の枠組みを用いてキャラクターの性格設定を行い、それらをもとに協力者である女性声優1名にキャラクターを演じ分けてもらい、演技音声を収録する。そして、その音声データについて分析を行い、性格ごとの文末イントネーションの特徴を明らかにしたい。

### 3. 研究方法

#### 3.1 キャラクターの人物設定

演技音声を収録するにあたりキャラクターの人物設定を行った。まず、性格の違いに焦点を当てるため、社会的属性を「生まれも育ちも東京で、平均的な一般家庭で育った都立高校に通う女子高校生」として統一した。次に、新版東大式エゴグラム第2版(TEG II)を参照し、性格設定を行った。TEG IIは、交流分析理論に基づく性格診断法である。交流分析理論とは、1950年代後半にアメリカの精神科医エリック・バーンが提唱した心理療法で、思考、感情、行動の元になるこころの状態を「自我状態」と呼び、人のこころには、厳しく批判的な自我状態(Critical Parent:CP)、優しく養育的な自我状態(Nurturing Parent:NP)、知識・経験から物事を判断する冷静な自我状態(Adult:A)、本能のままに自由にふるまう自我状態(Free Child:FC)、周りに順応しようとする自我状態(Adapted Child:AC)の5つの自我状態があるとしている。TEG IIでは、これら5つの自我状態を尺度とし、各尺度の高低やバランスによって人の性格を19類型に分類している。本研究では、各自自我状態が優勢に発揮された典型例だと考えられる以下の5つの性格類型を取り上げて分析を行う。①CP 優位型(厳しい)、②NP 優位型(優しい)、③A 優位型(冷静)、④FC 優位型(自由)、⑤AC 優位型(従順)である。また、TEG IIでは、それぞれの性格類型に属する人物の性格特性が、良い面、悪い面ともに示されている。その性格特性の記述を参照し、本研究で分析対象とする5つの性格類型それぞれに、良い面だけで性格設定をしたキャラクターと、悪い面だけで性格設定をしたキャラクターの2人ずつ、合計10人分のキャラクターの性格設定を行った(表2)。なお、本研究のデータは佐藤(2023)と同一のものである。

表2 キャラクターの性格設定

性格類型	良い面だけ	悪い面だけ
CP 優位型 (厳しい)	理想を追い求め、常に胸を張って堂々としている。責任感が強く規則やルールは必ず守る。	自信過剰でプライドが高い。批判的で、自分が正しいと思ったことを相手に説教調で押し付けることもある。
NP 優位型 (優しい)	どんな人も受け入れる寛容な心を持っている。常に人の話に耳を傾け、人の世話をするのが好きである。	相手を甘やかし、過保護にしがちである。おせっかいを焼き、相手の自主性を損なわせることもある。
A 優位型 (冷静)	理性的で常に冷静沈着である。注意深く、物事を客観的に判断する。	計算高く、冷徹である。あまり表情が顔に出ず、人からは面白味にかけると思われることもある。
FC 優位型 (自由)	天真爛漫で好奇心が強い。活発で、何事にも積極的に取り組む。	喜怒哀楽が激しく、周りの人の気持ちを考えずに勝手に行動してしまうため、自己中心的だと思われることもある。
AC 優位型 (従順)	協調的で、人から言われることに従順な、いわゆる「イイ子」である。慎重に物事を進めていく。	自分に自信がなく、遠慮がちである。優柔不断で、自分の気持ちを我慢してしまうこともある。

#### 3.2 音声データの収集方法

本研究の分析に使用する音声データは、2022年1月に収録したものである。本研究の協力者は、声優養成所を経て、現在は芸能事務所に所属しプロとして活動している20代の女性声優1名である。

本研究で分析するセリフは、①「ねえ、あの人たち、あんなところで何してるんだろう。」、②「あっ、ちょっとここで待って。部室のカギ、先生に返してくるから。」、③「おはよう。きのうはよく眠れた?」、④「お疲れ。じゃ、また午後ね。」、⑤「はじめまして。どうぞよろしくお願ひします。」、⑥「あの、先生。放課後、この部屋使ってもいいでしょうか。」、⑦「そうですね。少し時間をください。他の人とも相談してみますので。」の7つである。これらはキャラクターの社会的属性を女子高校生と設定したことから、発話場面を学校として調査者が作成したものである。協力者には事前にキャラクターの性格設定(表2)とセリフを渡しておき、収録当日には各セリフを1人のキャラクターにつき2回ずつ読んでもらった。

#### 3.3 音声データの分析方法

収録した音声データの分析にはPraat(Ver. 6.3.02)を使用する。分析の手順は以下の通りである。まず、各セリフの文末位置で音声分割する。なお、本研究では、間投詞以外の直後にポーズ(80ms以上の無音休止区間)が置かれる文節末も文末として認定することとした。その結果、上述した7つのセリフは、以下に示す記号(/)位置で、15に分割された。

- ①-1. ねえ、あの人たち、//①-2. あんなところで何してるんだろう。
- ②-1. あっ、ちょっとここで待って。//②-2. 部室のカギ、先生に返してくるから。
- ③-1. おはよう。//③-2. きんのうはよく眠れた?
- ④-1. お疲れ。//④-2. じゃ、また午後ね。
- ⑤-1. はじめまして。//⑤-2. どうぞよろしくお願ひします。
- ⑥-1. あの、先生。//⑥-2. 放課後、この部屋使ってもいいでしょうか。
- ⑦-1. そうですね。//⑦-2. 少し時間をください。//⑦-3. 他の人とも相談してみますので。

次に、PraatのText Grid機能を用いて音節ごとにアノテーションをし、To Pitch機能を用いてピッチカーブを描く。各セリフの文末音節について郡(2003)の分類(表1)に従って、目視と聴覚印象により文末イントネーションの型を判定し、性格類型ごとの特徴を分析する。

## 4. 分析結果

### 4.1 性格類型ごとの文末イントネーション型の集計結果

表3は、性格類型ごとに各文末イントネーション型を集計したものである。表3を見ると、性格類型ごとに文末イントネーション型の分布が異なることが分かる。これにより、性格の違いは文末イントネーションにもあらわれていることが示唆された。各性格類型の特徴としては、他の類型に比べてCP優位型（厳しい）は〈顕著な下降調〉の使用が10と最も多く、NP優位型（優しい）は〈疑問型上昇調〉の使用が24と最も多かった。そして、A優位型（冷静）は〈平調〉の使用が47と最も多く、FC優位型（自由）は〈強調型上昇調〉が16、〈上昇下降調〉が4と最も多かった。次節では、この集計結果をもとに、各性格類型で特徴的に見られた文末イントネーションについて詳述する。

表3 性格類型別の文末イントネーション型集計結果

文末イントネーション型	CP優位型 (厳しい)	NP優位型 (優しい)	A優位型 (冷静)	FC優位型 (自由)	AC優位型 (従順)	合計
a. 疑問型上昇調	10	<b>24</b>	9	12	16	71
b. 強調型上昇調	10	4	4	<b>16</b>	8	42
c. 顕著な下降調	<b>10</b>	0	0	3	3	16
d. 上昇下降調	2	0	0	<b>4</b>	1	7
e. 平調	28	32	<b>47</b>	25	32	164
合計	60	60	60	60	60	300

### 4.2 性格類型ごとの文末イントネーションの特徴

#### 【CP優位型（厳しい）】

CP優位型は、〈顕著な下降調〉の使用数が他の性格類型に比べ、最も多かった。CP優位型は、①-2「あんなところで何してるんだろう。」、②-2「部室のカギ、先生に返してくるから。」、⑦-2「少し時間をください。」などにおいて、他の性格類型で〈平調〉が使われるところで〈顕著な下降調〉の使用が見られた（図1）。郡（2003）では〈顕著な下降調〉は意外だと感じたことを示す文法的機能があるとされているが、そのような文法的機能を示すだけでなく、文末イントネーションを顕著に下降させることによって、「批判的」「説教調で押し付ける」といったCP優位型の性格特性があらわされていることが示唆された。

#### 【NP優位型（優しい）】

NP優位型は、〈疑問型上昇調〉の使用数が他の性格類型に比べ、最も多かった。NP優位型では、③-1「おはよう。」、④-1「お疲れ」や、⑦-1「そうですね」などで〈疑問型上昇調〉の使用が見られた（図2）。このように疑問文以外の文末でも〈疑問型上昇調〉を使用しているため、その使用数が多くなっていると考えられる。相手の反応を伺うような発話は上昇調になりやすい（森山、1989）とされており、「人の話に耳を傾ける」といったNP優位型の性格特性が、〈疑問型上昇調〉を多く使用することであらわされていると考えられる。

#### 【A優位型（冷静）】

A優位型は、〈平調〉の使用数が他の性格類型に比べ、最も多かった。他の性格類型では〈強調型上昇調〉か〈疑問型上昇調〉のどちらかの上昇調を使用しているところで、A優位型のみ〈平調〉の使用が見られた。例えば、③-1「おはよう」、④-1「お疲れ。」や、②-1「ちょっとここで待ってて。」などである（図3）。郡（2003）では、〈平調〉は特別な機能を持たないとされている。挨拶や依頼などの相手に働きかけをするセリフにおいて、特別な機能を持たない〈平調〉を多く使用することによって、「冷静沈着」「あまり表情が顔に出ない」といったA優位型の性格特性があらわされていると考えられる。

#### 【FC優位型（自由）】

FC優位型は、〈強調型上昇調〉と〈上昇下降調〉の使用数が他の性格類型に比べ、最も多かった。FC優位型は、他の性格類型で〈平調〉が使われるところで〈強調型上昇調〉の使用が見られた。例えば、⑥-2「放課後、この部屋使ってもいいでしょうか。」である（図4）。また、①-1「ねえ、あの人たち。」では、〈上昇下降調〉の使用が見られた（図5）。このセリフにおいて〈上昇下降調〉を使用するのはFC優位型のみであった。郡（2003）では、〈強調型上昇調〉は否定されることを拒否するような強い主張に使われ、〈上昇下降調〉は聞き手に注目をひきつけ、訴えかける意図を表すとされている。これらの文末イントネーション型を使用することによって、「自己中心的」「好奇心が強い」といったFC優位型の性格特性があらわされていると考えられる。

## 【AC 優位型 (従順)】

AC 優位型は、〈疑問型上昇調〉の使用数が NP 優位型に次いで 2 番目に多かった。これは「人の話に耳を傾ける」NP 優位型と、「従順」「遠慮がち」といった性格特性を持つ AC 優位型は、どちらも相手の反応を伺うタイプの性格類型であるため、〈疑問型上昇調〉の使用が多くなっていると考えられる (図 6)。しかし、その他の文末イントネーション型については他の性格類型と比べ、使用数が際立っているものは見られなかった。AC 優位型の性格特性は、文末イントネーションよりも、佐藤 (2023) で指摘した、高い音域を使い、発話句末の最終モーラを長く伸ばすといった、基本周波数や発話持続時間長の音声的特徴のほうにあらわれている可能性がある。

①-2 「あんなところで何してるんだろう。」

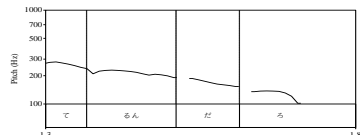


図 1 CP 優位型 (厳しい) による  
〈顕著な下降調〉の使用例

③-1 「おはよう。」

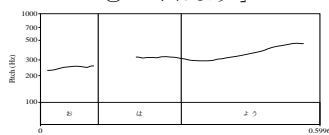


図 2 NP 優位型 (優しい) による  
〈疑問型上昇調〉の使用例

③-1 「おはよう。」

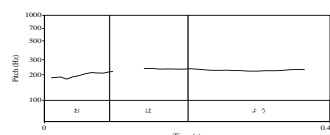


図 3 A 優位型 (冷静) による  
〈平調〉の使用例

⑥-2 「放課後、この部屋使ってもいいでしょうか。」

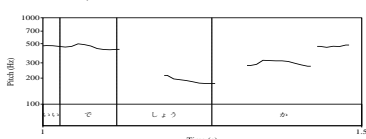


図 4 FC 優位型 (自由) による  
〈強調型上昇調〉の使用例

①-1 「ねえ、あの人たち。」

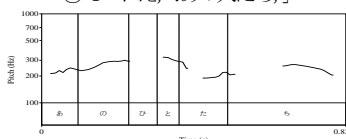


図 5 FC 優位型 (自由) による  
〈上昇下降調〉の使用例

③-1 「おはよう。」

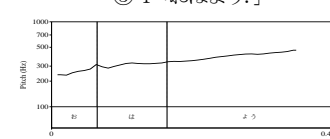


図 6 AC 優位型 (従順) による  
〈疑問型上昇調〉の使用例

## 5. まとめと今後の課題

以上、本研究では同一の女性声優が演じた性格の異なるキャラクターの演技音声を、文末イントネーションに注目して分析することで、キャラクターの性格設定の違いが音声にどのように反映されているのか探った。その結果、厳しい性格の CP 優位型は〈顕著な下降調〉、優しい性格の NP 優位型は〈疑問型上昇調〉、冷静な性格の A 優位型は〈平調〉、自由な性格の FC 優位型は〈強調型上昇調〉と〈上昇下降調〉の使用に特徴が見られた。従順な性格の AC 優位型については、文末イントネーション以外の音声的特徴によって性格特性があらわされている可能性があるものの、文末イントネーションは、「文法的機能」だけでなく、キャラクターの性格の違いも一部、反映していることが分かった。

また、本研究では、性格類型ごとの文末イントネーションの特徴について分析を行ったが、セリフごとの特徴も見ていく必要があると考えられる。例えば、③-2 「きのうはよく眠れた？」では、すべての性格類型で〈疑問型上昇調〉が使用されていた。普通体の疑問文においては、〈疑問型上昇調〉を使用しないとその意図が示せないためだと考えられる。しかし、③-1 「おはよう。」、④-1 「おつかれ。」などの挨拶表現においては、性格類型ごとの特徴が顕著に見られた。このように、文末イントネーションに性格が反映されやすいセリフと、そうではないセリフとがあると考えられる。今後はこれらも考慮し、新たな音声データを収集し分析することで、性格と演技音声との関係について研究を進めていきたい。また、キャラクターの性格が演技音声に与える影響をより明確にするためには、聴取実験も必要であろう。これらは今後の課題としたい。

### 参考文献

- 郡史郎 (1997) 「日本語のイントネーション」『日本語音声 2—アクセント・イントネーション・リズムとポーズ』pp. 169-202, 三省堂
- 郡史郎 (2003) 「イントネーション」北原保雄 (監修), 上野善道 (編) 『音声・音韻』pp. 109-131, 朝倉書店
- 丸島歩 (2022) 「女性声優の演技音声にあらわれる役柄のジェンダー差—文末イントネーションに注目して—」『実験音声学・言語学研究』14, pp. 16-31.
- 森山卓郎 (1989) 「文の意味とイントネーション」『日本語と日本語教育 1』pp. 172-196, 明治書院
- 佐藤茉奈花 (2023) 「同一声優による異なる性格を持つキャラクターの演技音声の分析」『社会言語学会第 47 回大会発表論文集』pp. 29-32.
- 東京大学医学部心療内科 TEG 研究会 (2009) 『新版 TEG II 活用事例集』金子書房